

見えなかった景色をみえるように、仲間とともに

就労継続支援事業所 mail:えるしい
稲木 俊夫

講演の後、私の質問に丁寧に答えくださりありがとうございました。

「放課後」にも参加して、質問した内容についてもう少しお話を深めたかったのですが、翌日の勤務があり残念ですが家に戻りました。

質問させて頂いたおかげで、「ケアニン 日めくりカレンダー」を頂きました。帰りの電車の中で、日めくりカレンダーを一枚一枚めくって、書かれている文字を追いかけると、不思議な事にそのセリフの場面の映像が浮かんできました。それは不思議な感覚でした。

こんなにはっきりとその場面を思い浮かべるとは。山国さんのお話の中にあつた徹底的にリアリティーを追及するといった事や、取材した中で書き留めた介護職員や家族等の生の言葉などでセリフが生きてからなのだと思います。

「当事者発の・当事者向けの映画」にしない。この言葉にも納得しました。

障がい福祉にかかわってきて、障がい福祉のテーマで講演会、研修会を開いても、いつも集まるのは関心がある人、動員をされた人ばかりで、なかなかそこに広がりが出てこないという繰り返し。関係者の中だけの議論に終わってしまっていました。

このやり方では何も変わらない、人材も集まらないと考えていました。そして、この言葉に出会いました。「地域をデザインしていく」。

映画や講演会を通して、住民の人たちが出会い、再会し、議論していく。

その積み重ねが、参加者一人一人が我が事と考え、地域をデザインする一人一人になっていく。

講演会、映画会をやって何人集まったではなく、その後のアクションの大切さを教えられました。

「今まで見えなかった景色を見えるように」。

この活動にかかわりたいという思いが人材育成・確保にもつながっていくのではないか、そんなことを考えました。

ありがとうございました。